北海道海洋生物科学研究会ニュースレター

The Newsletter of the Research Group for Hokkaido Marine Biological Sciences

No. 21　（2010 年 4 月発行）　発行：北海道海洋生物科学研究会

1．第８回シンポジウム（利尻）開催報告　　川井唯史（シンポジウム事務局／稚内水産試験場）

2．第９回シンポジウム（平成２２年度）の予定

3．北海道大学グローバル COE「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」　柴田英昭，福澤加里部，仲岡雅裕，山中康裕（北海道大学大学院環境科学院）

4．事務局だより

1．『第８回北海道海洋生物科学研究会シンポジウム』報告

昨年 6 月 19 日に道北の利尻島にある、利尻富士町　利尻島開発総合センターにて、テーマ「クラゲ類の不思議な生活史とノーベル賞への貢献」でシンポジュウムが開催された。主催は本会と札幌医科大学附属臨海医学研究所の公開講座を兼ねて行われた。参加者は 39 名であり、函館や東京からの遠路参加が目立った。

講演の様子

尾島孝男（北大院水産）代表幹事のご挨拶と企画の内容（クラゲと下村博士ノーベル賞）のご説明があり会は始まった。発表内容は4名の先生が行い、以下の通りであった。一宮慎吾（札医大病理）「クラゲ蛍光蛋白の生命科学への貢献とバイオイメージング」、三宅裕志（北里大海洋）「クラゲの秘密」、高橋延昭（札医大臨海）「コンブのヒゲ（刺胞動物ヒドロ虫類）について」、小杉和樹（利尻町、日本野鳥の会道北支部）「利尻島の四季～風景と心～」

会は盛会に終了し、実行委員長である高橋延昭先生による講師、参加者への御礼と感謝の言葉が述べられ終了した。北海道海洋生物科学シンポジュウムが北海道北部で開催されたのは初めてであり、多くの方が集まった有意義な催しとなった。

（会員：川井唯史報告）

2．第９回シンポジウム（平成２２年度）の予定（重要）

第９回北海道海洋生物科学シンポジウム

今年のシンポジウムは、北海道大学グローバル COE プログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」との共催で行い、グローバル COE の人材育成プログラムの一環として、北海道大学大学院環境科学院の学生を中心に企画しました。統一テーマは設けず、学生が話を聴いてみたい方にお願いする方針でプログラムを組んでいます。ぜひご参加下さい。

記

日時：平成２２年１１月５日（金曜日）午後
場所：北海道大学大学院地球環境科学研究院（札幌市北区北１０条西５丁目）
共催：北海道大学グローバル COE プログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」

講演者（タイトルは未定です）
谷口旭先生（東京農大）プランクトン
大城隆先生（鳥取大工）海藻の酵素
山北剛久先生（森林総研）藻場の個体群動態
河井崇先生（阿南高専）沿岸の群集生態（固着生物）
小埜恒夫先生（北水研）海の酸性化

懇親会： アスペンホテル　（札幌市北区北８条西４丁目）

問い合わせ先：北海道大学大学院地球環境科学研究院　沖野龍文（e-mail:okino@ees.hokudai.ac.jp）

３．北海道大学グローバル COE「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」

http://www.ees.hokudai.ac.jp/gcoe/

柴田英昭，福澤加里部，仲岡雅裕，山中康裕（北海道大学大学院環境科学院）

１．はじめに

地球規模あるいは地域スケールでのさまざまな環境問題に対応するためには、社会的要請を踏まえた、特定の学問分野にこだわらない実践的な研究が必要です。本プログラムでは、地球環境問題を解決するための地球システム科学の世界的な拠点の一つとして、**「統合フィールド環境科学」の教育研究拠点形成**を目指しています。研究はもとより、行政や企業、教育などの現場で活躍できる環境リーダーの育成に取り組んでいます。北海道大学大学院環境科学院と同農学院環境資源学専攻によるプログラムです。

本プログラムでは、**「100 年観測網の構築」、「統合モデルによる将来予測」、「国際的に活躍できる研究者の育成」、「実践的フィールドの提供」**を 4 つの大きな目標としています。環境問題解決に向けての研究としては、特に温暖化等の人為負荷に対して脆弱な地域であるシベリア、モンゴル、インドネシアの3地域と北海道で観測を行い、地域固有の環境変化を明らかにしていきます。また、自然条件や社会経済的背景を考慮に入れた統合モデルの開発や、それを用いた将来予測の研究を推進します。人材育成については、海外や国内の拠点フィールドにおいて、世界各国の研究者や大学院生が集まり議論することにより、広い視野をもち国際的な統合研究をリードできる人材を育てます。また、学問分野の壁を越えた学際的な視点から、実学として地域から様々なことを学ぶプログラムを実施し、行政機関、試験研究機関、民間企業、環境団体等で活躍できる人材を育てることを目指しています。

２．推進体制

上記の目標を達成するために、「**海外観測留学生推進室**」、「**国際プロジェクト推進室**」、「**環境教育研究交流推進室**」、「**統合モデリングタスクフォース**」を中心とした活動を展開しています。「**海外観測留学生推進室**」ではシベリア、モンゴル、インドネシアに観測拠点を設置し、環境変化に対して脆弱な生態系における長期モニタリング体制を確立するとともに、各地域固有の課題解決に向けた研究を推進します。「**国際プロジェクト推進室**」では北海道大学が所有する森林圏、耕地圏、水圏におけるフィールド拠点ネットワークを活用した長期的・統合的な生態系研究を行います。また、Global Land Project (IGBP/IHDP)などの国際研究プロジェクトや、国際 LTER ネットワーク、FluxNet などの国際観測ネットワークとの協力・連携を推進します。「**海外観測留学生推進室**」と「**国際プロジェクト推進室**」は、海外および国内のフィールド拠点において、国際フィールド科学サマースクールを開催し、国際的視野をもった統合フィールド環境科学研究者を育成します。「**統合モデリングタスクフォース**」では各フィールド拠点で得られた観測データや研究成果等を用い、気象・水循環・物質循環・生態系変動に関する統合モデルを開発し、社会科学との連携を含めて地球・地域システムの統合的理解を推し進めます。「**環境教育研究交流推進室**」では行政機関、民間企業、環境団体当との連携を図り、地域密着型・問題解決型の研究や教育活動、インターン派遣などを通じて、実践的な人材を育成します。

３．サマースクール 2010「Cascading interactions among ecosystems」

2010 年 6 月 19 日～7 月 1 日に、国際プロジェクト推進室によるサマースクールが北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所を中心に開催されます。沿岸、湖沼、河川、森林など異なる生態系間での相互作用を中心テーマとして、野外実習やグループ討論、研究立案トレーニングなどを実施します。北海道東部の別寒辺牛川－厚岸湖流域と沿岸域を中心として陸面から水域、海洋への生態系・生物相の連続性・相互作用や、土地利用変化による環境・生態系影響、野生動物増加と生態系劣化の関係などをテーマにし、近接する釧路湿原による自然再生の取り組みについても学習する予定です。本プログラムでは博士院生を対象とし、海外から 10 名、本 GCOE プログラムから 10 名の参加者を募集しています。フィールド研究の手法や最新成果を学ぶだけではなく、参加者自身が独自の課題・仮説を発見し、グループ討論を通じて新規の研究プロポーザルにつなげるようなトレーニングを行います。さまざまな国からの参加者による英語での討論や意見交換を通じて、将来の国際共同研究を牽引する人材、グループを育成することを目指しています。今年の参加者募集やプログラムの詳細については、本 GCOE のホームページ http://www.ees.hokudai.ac.jp/gcoe/en/school/2010inet/をご参照ください。また、昨年度は北海道大学雨龍・中川・天塩研究林にて同サマースクールが開催され、その様子は本 GCOE ホームページ(http://www.ees.hokudai.ac.jp/gcoe/en/school/INeT_SummerSchool_2009/)ならびに LTER ニュースレター(http://www.lternet.edu/news/Article282.html)に報告されています。

写真 GCOE-INeT サマースクール「北方林における生態系生態学の最前線」の実施風景

４．事務局だより

１）年会費納入のお願い

平成２２年度年会費を同封の払込票で払い込んでください。一般会員１，０００円、学生会員５００円です。払込票には支払い年度（未納年度を含む）を記入しましたが、新年度分既納者には同封していません。

口座番号　02700-1-93161　加入者名　北海道海洋生物科学研究会

２）平成２２年度　総会の開催について

１１月５日（金）に、北海道大学大学院地球環境科学研究院で、当研究会の総会が開催されます。ご参集ください。総会について用件がある場合は、予め事務局（沖野）宛にご連絡をください。

３）会計報告

平成２０年度会計報告は以下の通りです。平成２１年６月に開催された総会で承認されました。

平成２０年度収入

会費　　２３，５００円
繰り越し　６２，４６９円
計　　８５，９６９円

平成２０年度支出

事務用品　　２，３５２円（主にニュースレター印刷費）
送料　　７，７６０円（ニュースレター発送費）
振替手数料　１，５２０円（会費受け取り）
補助　　４０，０００円（シンポジウム）
計　　５１，６３２円

平成２１年度へ繰越　３４，３３７円

・本会に関する問い合わせ・入会希望は、
事務局（沖野 龍文）℡011-706-4519、電子メール okino@ees.hokudai.ac.jp
・ニュースレターへの情報提供・投稿などに関するお問い合わせは、
ニュースレター編集担当（阿部 剛史）℡011-706-4507、電子メール tabe@museum.hokudai.ac.jp
までお願いします。

編集後記

前号の発行から、かなり間が開いてしまいました。大変申し訳ありません。今年度の当研究会シンポジウムは、北海道大学グローバル COE プログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」との共催です。GCOE から紹介記事をご寄稿いただきましたが、記事にあるサマースクールの申し込み締め切り日が迫っております（４月２０日）。興味をお持ちのかたは、お早めにホームページをご覧くださるようお願いいたします。（阿）